



# 日本の諸地域 北海道地方

## －「問い→仮説→検証」型の授業モデル－

神奈川県 平塚市立金目中学校 大谷誠一

### 1 はじめに

本稿は日本の諸地域学習のスタートとして、歴史的背景に注目して北海道地方（以下、北海道）を扱った授業実践報告である。教科書では最後に配列している北海道を日本の諸地域学習の最初にした理由は、地理的分野よりも先に学習した歴史的分野の授業の中で明治維新を扱った際、生徒たちが北海道開拓の歴史に興味をもって取り組んでいたので、地理で北海道を先に学習した方が、歴史で学んだ内容をうまく活用できると考えたからである。

歴史的背景を中核とする考察で授業を行う際、2つの視点で単元をとらえた。1点目は内容的なものである。北海道を特色づける産業や文化の形成に、どのような歴史的背景があったのかに着目させたい。2点目は方法的なものである。地理学習を歴史的な見方・考え方でとらえる、要するに時間軸で北海道を学習しようということである。

また、なぜという問いから始まる、「問い→仮説→検証」型の科学の方法による探究過程をたどる授業構成を基本とした。この学習構成をとった理由は、地域の特色を生徒が探究する中で習得したことをもとに、さらに深まった問いの発見や、新たな社会的事象への応用という学習の発展が期待されるからである。

### 2 授業を構想する

#### 1) 歴史的背景を中核とした考察

歴史的背景に着目して授業を行う際、内容的には各授業の導入場面で、アイヌの人々や開拓史など、北海道の歴史的なできごとを扱った。方法的にはさまざまな地理的テーマに関して経年変化のグラフを提示しその推移に着目させ、変化のようすを説明させる学習を行った。また、時間軸で考えるという視点から、学習の発展として未来予測の問いも行った。

#### 2) 「問い→仮説→検証」型の授業構成

生徒にとってこの構成による授業は初めてであった。そのため本単元では1時間をかけて仮説の立て方を説明し、実際に仮説を立てる授業を行った。以下は本単元の指導計画である。

##### 【単元指導計画】

| 段階                | 学習内容                                    | 配当<br>時数 |
|-------------------|---|----------|
| 第1次<br>学習課題発見     | ○北海道地方の位置、自然環境（地形、気候）、歴史<br>○学習課題と仮説の設定 | 2        |
| 第2次<br>仮説の根拠資料の収集 | ○北海道地方の農業<br>○北海道地方の水産業<br>○北海道地方の観光業   | 3        |
| 第3次<br>まとめと評価     | ○北海道物産展を調べよう<br>○単元のまとめシートの記入           | 1        |

#### 3) 指導方法

##### ①教材の活用

○教科書：教科書の図表を活用して授業を行った。また、平成28年度版地理教科書では、観

光業の項目が加わったので、それを学習内容として取り扱った。開拓の歴史については歴史教科書を活用した。

○ICT教材：帝国書院が企画・販売しているDVD「日本の諸地域 第7巻 北海道地方」を自然環境の学習場面で活用した。また、ウェブサイトの「中学校の先生のページ」の北海道の写真もスクリーンに投影し、授業に臨場感をもたせた。

○地図：地理学習において地図の使用は必須であると考え、地図帳を活用しながら授業を行った。まとめの学習で地図を作成する作業では、「中学校の先生のページ」から白地図をダウンロードし、ベースマップとした。

### ②グループ学習

仮説を立てる過程とまとめの学習ではグループ学習を行った。仮説を立てる過程では、学習課題に対する答えの予想を生徒個人に考えさせ、それをグループで話し合い、仮説を立てさせた。まとめの学習では北海道物産展に出店している店舗を4種類の業種に分類し、グループ内で分担して地図を作成し、業種ごとの特徴を発表し、その共通点と相違点を話し合う活動を行った。いずれも1グループは4人。発表ボードを使いながらの活動が学習の深まりにつながった。

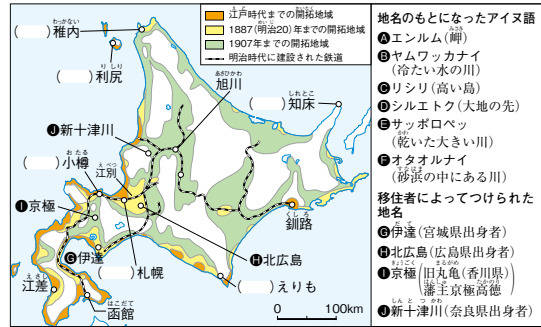


図1 『社会科 中学生の歴史』p.169 「⑥北海道に残るさまざまな地名」

拓民の出身地に由来していることを理解させた。  
 第2時：最近某研究所が発表した「都道府県魅力度ランキング」において、北海道が9年連続の1位となった。そこで、「なぜ北海道は魅力的な土地なのだろうか」という学習課題を設定し、生徒たちはグループ学習を通じて、「ほかの地方にはない食べ物（とくに海産物）、観光資源、文化があるからではないだろうか」という仮説を立てた。それを検証するために、北海道の農業、水産業、観光業の学習へと進めた。

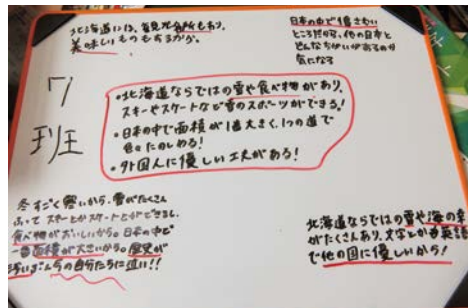


写真1 グループで立てた仮説の例

## 3 授業を実践する

### 1) 第1次

第1時：最初に地図帳で北海道の位置を確認させた後で、同じ縮尺で北海道と生徒が住んでいる関東地方の地図を比較させ、北海道のスケールの大きさを認識させた。次に地形と気候、歴史についてDVDを視聴させた。生徒は興味をもって視聴していた。DVDは効果が高く効率的な教材である。最後に『社会科 中学生の歴史』p.169 ⑥に取り組みせ、地名の多くがアイヌ語と、開

### 2) 第2次

第3時：導入でクラーク像と中山久蔵の肖像写真を提示した。クラークについては歴史の授業で学習済みだが、中山については北海道の稲作に尽力した功績を紹介した。その後、「クラークが不可能といった北海道での稲作を中山はどのように成し遂げたのだろうか」という問いから学習を進めた。『社会科 中学生の地理』（以下、教科書）本文p.258「2 厳しい自然環境を克服した稲作の歴史」1～3行目の「石狩平野は（中略）、北海道の中では夏の気温が比較的高く、

日照時間も長いからです。」に着目し、「なぜ北海道は日照時間が長いのだろうか」という発問をした。北海道は梅雨のない気候に加え、高緯度ゆえに夏場の昼の時間が長いという地域的な特徴を認識させ、稲作が可能な気候条件であることを確認させた。その後、土地改良と品種改良について説明した。

次に教科書p.260③(図2)を提示し、おもな農作物の全国生産に占める北海道の割合を確認させ、北海道の農業の独自性を認識させた。その後、その生産地である十勝平野と根釧台地のようすについて説明した。生徒にとっててんさいは初めて聞く作物であったが、教科書の巻末資料で確認することができた。

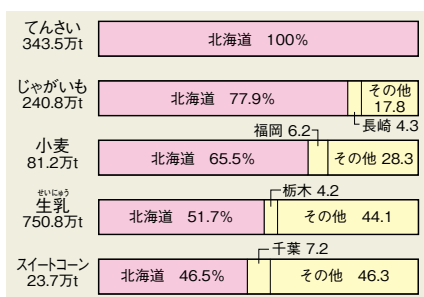


図2 『社会科 中学生の地理』 p.260 「③おもな農産物の全国生産に占める北海道の割合」(2013年)〈農林水産省資料〉

第4時：導入で「江戸時代のアイヌの人々と和人の交易品は何だったのだろうか」という発問に対し、「さけやこんぶ」と生徒が答えることで、昔から北海道ではアイヌの人々が漁業を行っていたことを確認させた。

その後、教科書p.261⑨(図3)を読み取らせることで、北海道の漁業の独自性を認識させた。次に北海道の水産業の歴史について、統計資料から独自に作成した漁獲高の推移のグラフをもとに説明した。生徒は近年養殖業や栽培漁業がさかに行われていること、また輸出が伸びていることを資料から確認し、北海道漁業発展の未来予測をさせた。江戸時代、いりこ(干したなまこ)は清への輸出品目であったが、そ

のなまこが、現在でも北海道の輸出品目金額で第2位であることに生徒はとても驚いていた。歴史学習と地理学習が結びついた瞬間であった。

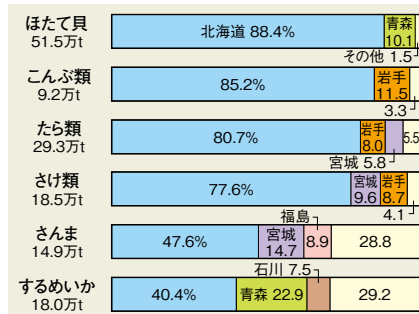


図3 『社会科 中学生の地理』 p.261 「⑨おもな水産物の漁獲量」(2013年)〈平成25年 漁業・養殖業生産統計年報〉

第5時：導入で1960年代頃から北海道を旅行する若者たち(通称カニ族)が野宿する写真を提示し、彼らは何をしているのか、なぜそこまでして北海道を旅行したいのだろうかという問いを立て、授業を始めた。

次に観光口コミサイトのデータを参考に、北海道の主要観光地の写真を提示し、北海道にはどのような観光資源があるかという問いのもと、映し出された観光資源を分類させ、自然景観が北海道観光の魅力であることを確認させた。

その後、官公庁から提供された最新のデータを資料化し、国内の道外や外国人観光客の来道客数の経年変化をみて、道外から来る日本人、外国人観光客とも増加している(2011年は除く)ことを読み取らせた。また、彼らが訪れる時期を比較させた。その結果、日本人は夏に、外国人は冬に多く訪れることも明らかになり、外国人が雪を求めて北海道に来ることを教科書p.263の本文で確認させた。その後、北海道への観光客を増やすための方策が話し合われ、生徒からさまざまなアイデアが出された。

### 3) 第3次

第6時：単元のまとめとして、デパートの北海道物産展(教科書p.261⑧、写真2)を調べるグループ学習を行った。活動は以下の通りである。



写真2 『社会科 中学生の地理』p.261 「⑧多くの買い物客でにぎわうデパートの北海道物産展」(大阪府, 2012年撮影)

- 近くのデパートで行われた北海道物産展のチラシを見て出店している店舗を観察させ、その傾向をつかませた。その結果、海産物と菓子の出店が多いことが明らかになった。
- 店舗を農産物、畜産物、海産物、菓子に分類し、それぞれの業種の店舗所在地の分布図をグループ内で分担して作成させた。生徒は店舗がある市町村にシールを貼ることで地図を完成させた。市町村に複数の店舗がある場合のシールの貼り方についてアドバイスをした。
- 完成した地図をもとに、業種ごとの特徴を発表し、共通点と相違点を話し合う活動を行った。



写真3 物産展出店の店舗分布マップの作成

## 4 まとめ

生徒たちの話し合いはグループ内からクラス全体に発展し、「なぜ、農産物や海産物はとれていないのに、札幌からの出店が多いのだろうか」という、今までの学習活動を活用した新たな問いが生まれた。そして、「生産しているところよりも消費しているところに工場があるのではないだろうか」という仮説を立てた。生徒たちは自

ら作成した地図をもとに、対話的な活動を通じ深い学びを行うことができたのではないだろうか。

学習のまとめとして「単元シート」を記入させ、評価材料としている。以下は生徒の記述の一例である。

**Q 仮説は検証できたのであろうか。**

**A** 検証できた。ほかの地方にはない食べ物、観光資源、文化がたくさんあることがわかった。食べ物では北海道でしかとれないものがたくさんあった。観光資源では他の国のような景色がたくさんあってすごくきれいで、たくさんの観光客が来るのはこういう理由なのだと思った。

**Q 単元を通じた授業の感想を書きなさい。**

**A** 北海道は寒いので不便なところだと思っていたが、気候に合わせた農業を行ったり、観光の工夫をしていたりと、寒さを強みに変えていることが発展の理由だと思った。発表ボードを使って意見を出し合うのが楽しかった。

**A** 経済的な発展を目指すのは良いが、それよりも大切な北海道独自の文化が消えていくような印象をもった。アイヌの文化を今の生活に取り入れることができるならば、さらに魅力的になると思うのだが。

歴史的視点でアイヌの人々のことにある程度ふれることができた。しかし、現在のようすについて授業で扱えなかったことを生徒から鋭く指摘された。公民的分野の基本的な人権の尊重の単元で、アイヌの人々についての学習を深めていきたい。

今後発表される高校の新学習指導要領では、「地理総合」が必修科目となる予定である。中・高の連携を考えたときに、生徒たちが「地理は面白い」という印象をもって高校に進んでほしいという思いで教材研究、授業実践を行っている。本実践が先生方の参考になれば幸いである。

帝国書院の指導者専用サイトに、  
本授業研究のワークシートを掲載しています。  
(<https://www.teikokushoin.co.jp/members/>)